

## 【産 業】

・松本新平（推定・文政年間～明治中期）  
＝明治初期に広大な水田を懇成＝  
安政 2 年(1855)に松前陣屋建設の人夫頭として従事した人だ。

明治初年から 17 年(1884)ごろまでに、多くの人手を抱え共同生活し、清水川から東前の中心まで水田 50 町歩(50 畝)を懇田した。

○カール・レイモン(1894～1987)  
＝北海道開発プランを提唱＝

ドイツで食肉加工を営む家に生まれた。ハム・ソーセージの知識と技術をもって、大正 9 年(1920)、函館へ来て事業を興した。函館の女性と結婚した。

肉食の少ない日本人は体型が貧弱で病気に罹る人も多かった。食生活の改善と北海道での畜産開発を夢見て、本郷駅(渡島大野駅)近くに新たな工場を建てた。

昭和 8 年(1933)、新たなプランを、道は認めず、工場は強制買収され函館へ移った。戦後函館で再開し成功を収めた。

◎異国にて産業興した  
レイモンさん

大野郷土史かるた読み札



○岡山峰吉(1871～1920)

＝大正時代の果樹王＝

明治 31 年(1898)大野に移住した。

果樹園は山田致人が試みた地で、10 町歩(10 畝)を経営しリンゴ、ブドウ、梨などで成功した。場所は文月・村内方面である。

大正 8 年(1919)の「大野村統計表」をみると売上高の大半は岡山果樹園の生産と思われる。法亀寺に峰吉の碑あり。

○中村長八郎(1867～1931)

＝養鯉や酒造りを手掛けた＝

明治 37 年(1904)道議会議員を一期務めたが、家業に専念し二代目郵便局長となった。酒造りは先代に続いて行われた。

観音山近くの沼を拡張し鯉を飼い、養鯉園を設けた。現在の八郎沼公園である。

農事試験場の誘致に尽力した。

◎旨い米郷土の銘酒大の川

・鈴木与惣右衛門

＝産業の発展に貢献した事業家＝

昭和 25 年(1950)の大野村自治制施行 50 年記念行事で、市渡から開拓功績者に挙げられた。何代目か定かでない。明治時代前後に与惣右衛門の名が登場する。

村の飢きんに備え馬鈴薯を乾燥し貯蔵した。森林造成、養蚕業、酒造業などにも手掛けた。

・高田鉄三(1843～1916)

＝郷土の植林功労者＝

文月村生まれ。子どもの頃から父の植樹を手伝い植樹方法を学んだ。さらに濁川村で苗木の育成も学んだ。

文月神社の杉から種子を採取し育て、苗木を植林し成功させた。

安政 2 年(1855)から大正 4 年(1915)まで植栽した樹数は 60 万本に達し、うち杉は 46 万本に及んだ。

大正 7 年(1918)、道開拓功労者に選ばれた。

・山田喜平(1893～1966)

＝日本のめん羊振興に貢献＝

大野村本郷出身。

大正 3 年(1914)、盛岡高等農林学校卒業後、農林省に勤務し種羊技師となった。道内の種羊場長を歴任しめん羊普及振興に貢献した。

昭和 6 年(1931)、喜平の書いた本『緬羊と其の飼い方』にジンギスカン料理が載り、日本で初めてジンギスカンを紹介した文献とされている。

山田喜平

